

令和3年6月24日

**【心地よい響き】**校長室に遊びに来るメンバーとたびたび行う遊びがあります。それは「お手玉かくし」です。お手玉3つ(今はなぜか、どこに隠したかがわからず2つになっていますが)を校長室のどこかに一人が隠します。それを決められた時間(これがまちまちで、1分の時もあれば、8分の時も…。隠す人の気分で決まります)に探すという遊びです。



4人ほどでこの遊びをしている時に、隠している人に向かって、目をつぶりながら「もういいかい」と尋ねます。すると「まあだだよ」と応えてくれます。そして、また別の人が「もういいかい」と尋ねると、「まあだだよ」と応えます。そして、またまた「もういいかい」…。というように次々と言う人がかわっていった時、「もういいかい」の声の重なり心地よさに気づかされたのでした。

幼少期、かくれんぼをしながらこんなふうになふうに友だちと遊んだ、あの光景が浮かんで、この「もういいかい」の響きの心地よさを、理屈ではなく体が覚えていたんだと、気づかされたのでした。

今こうやって、私と「お手玉かくし」をしているこの子どもたちにも、今、私が体感したような思いが、何十年か後も体に残っていたらいいなあ、とお手玉を必死で探しながら願う私でありました。



月に3日ほど、3コースある通学路を朝まわります。そして、子どもたちと学校まで一緒に歩いてくることもあります。先週は2コースを1年生のKさんと歩いてきました。その途中、Kさんは道端に咲いていた花をとって、写真のようにして「校長先生、ドレスだよ」「ほうきだよ」と言って紹介してくれました。そして、「はい」とその花をプレゼントしてくれました。「ドレスとほうき」もったいなくて、しばし校長室の花瓶にいけさせてもらいました。ありがとね。